

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(西ユニット)		
所在地	出雲市奥宇賀町23-1		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和2年10月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念である、①入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る。②一瞬の笑顔求めて…。を体現しながら、支援を行っています。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、外出や地域交流、社会参加に制限があり、外へ向かっての活動は難しいですが、支援目標の「五感と体で四季を感じる」の支援目標を実践し、お花見・食レク・スポーツなど、季節に合わせて、計画・活動を行っています。東西対抗運動会では、見事優勝!! 見事な結束力でした。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平田の自然の環境の中、木のぬくもりと清潔な空間のホームがある。コロナ禍の中、家族との関係が途切れないように毎月ご家族と入居者との葉書のやりとりを始め、好評を得ている。毎月のご利用者のご様子の手紙も、絆をたえないようにしている。コロナ禍の中外出や地域交流、社会参加に制限がありながらも、支援目標をホームで実践してホーム内運動会を行ったり、ご利用者の誕生日には希望メニューを皆で作ってお祝いし、笑顔で賑やかな生活を送っている。毎日の食事作りもスタッフが工夫して調理されており、いつも良い匂いが漂っている。今回外部評価においてはスタッフ全員が自己評価に目を通されており、仕事に対する意識の高さを感じた。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和し、スタッフ間で共有している。毎月の月間目標も掲げ、同様に唱和、実践し評価している。	理念は貼りだされて、毎朝唱和されている。毎年、毎月ユニット別で目標を掲げ、スタッフ全員で目標に向けて、意識して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウイルス感染予防の為、それまで交流していた、地域の学校やボランティアさんとの交流を控えている。お花ボランティアさんやコミセンとのやりとりは継続しており、今後も出来る事なら積極的にやっていきたい。	コロナ禍で毎年の交流ができなくなっている。しかし地域の銀行のご利用者様の作品の掲示やコミュニティセンターとの便りの受け渡し、お花ボランティアさんは継続し、できる事は継続していけるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において、外部との交流は難しいものの、地域の銀行に入居者様の作られた作品を展示し、理解を求めている。定期的に楽舎新聞の発送をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、今は中止となっているが、10月からは再開し、実践内容の報告や行事も分かりやすく、パネルに写真を張り出し伝える。	コロナ禍の中、ご家族様の参加のある運営推進会議はできないているが、アンケートを活用したり、コロナ対策についての意見交換をし、実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問して、意見交換やアドバイスをもらっている。	電話や現状報告等で意見交換やアドバイスもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束について学び、実際の日々のケアについて話し合っている。リスクを配慮しながら「鍵をかけないケア」を実践している。10月には疑似体験研修を行う(食事介助)	10月に、内部研修で食事介助の疑似体験学習を行う。今まで当たり前だったことへの気づきの学習を行い、身体拘束についての学び、実践日々のケアについての話し合いはいつも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修を行い、日々のケアを振り返り、より良いケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、制度理解と内容把握に努めている。入居者様の自立した生活を送れる様、御家族様、スタッフ同志話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際、不安な事、困ってる事、要望等聞くよう心がけている。又面会時、文章でのお知らせ、電話での対応など、つどお知らせと説明報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご様子を伺い、意見・要望を運営や支援、ケアプランに反映させている。又、毎月の手紙でご様子を報告し、現状を知って頂いている。	手紙、アンケート、、、ご家族面会時は積極的に話をして意見を聞き出し、運営に反映できるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見交換できる雰囲気である。10時の申し送り時には必ず意見交換をしている。管理者も業務に入り、状況を体感し話し合いを設けている。	管理者が交代したが、以前と変わらず職員は意見や提案をしやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年恒例の「年頭の決意」を各々が掲げ、年齢、役職関係なく、意見交換や相談が出来る環境を作っている。有休も各自しっかり取って頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修参加も減少はしているが、内部研修を毎月行い、講師担当も決め、しっかり勉強を行っている。メディアや公的機関からの情報と確認しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が介護人材確保定着プロジェクトに参加し、又スタッフ1人が出雲地域介護保険サービス事業者連絡会青年部の役員として、他事業所や医療関係者などと交流し、サービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に前ケアマネージャーや病院等からお話を聞き、入所前には実際ご本人に会いに行き、現状把握やお気持ちを伺い、安心して入所して頂ける様支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、意見や要望等を詳しくお聞きしている。不安な点があれば相談に乗り、安心して入居して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様の情報をもとに、ケアマネージャーや主治医と連携をとり、可能なサービス内容の助言・提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様出来る事や、経験・知識を活かし、活躍の場を作っている。教えてもらいながら信頼関係も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時に日頃の様子を、詳しくお伝えしている。御本人様から御家族様に宛ててのハガキ支援をして、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍において、面会の制限があり難しいが、親しくされていた方々の名前、場所、土地の名前を話題に出しながら、思い出して頂き、関係が途切れないよう努めている。	コロナ禍において、家族との面会が制限される中、家族ばかりでなく知人へ葉書を送ったり絆を絶えないように努力している。10月からは事前連絡をしてもらい、時間制限をしながら、家族との相談室での面会も行えるようにした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、仲の良い方同士にセッティングしたり、一人孤立しないように配慮している。時にはスタッフが会話の橋渡しをしながら共同生活を楽しんで頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、御本人様、御家族様との関係性を大切にしながら、相談支援に努めている。また、退所時アルバムをお渡ししたり、御本人様に会いに行き絆を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様から普段の会話から何をしたいのか、何を求めているのか充分時間をかけて想いを汲み取っている。御家族様に面会時等、希望・意向を伺っている。	話して表現できない方にはご家族からのご本人のご希望であろうことや思いを伺うようにしている。普段の会話の中からご本人の意向を伺えるように時間をかけて想いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に御家族様から生活歴、過去歴の情報をお聞きしている。これをもとに入居者様との会話やにより新しい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身アセスメントシートを活用し、見てすぐわかる様情報収集し、また送り時に1日の様子を報告し、スタッフ間で情報、現状を共有把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年頭に入居者様の目標、願いなどお聞きし、それをケアプランに反映している。3ヶ月ごとのモニタリング、御家族様からの要望もお聞きし現状に合ったケアプランを作成している。	担当者が中心になって、入居者の方の目標、願いを聞き、スタッフの意見も聞きながら、ケアプランを作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録とケアプランが連携しており、毎日評価が出来るようになっている。変化があれば、検討会議録を活用し、話し合い情報共有し、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や、急な受診、御家族様対応が難しい方などスタッフが付き添い情報提供し、柔軟に対応している。居宅薬剤管理を取り入れており、薬剤師さんよりアドバイス等頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	銀行へ作品を提出、出展により、目標をもち、意欲を高く能力を発揮している。コロナの感染リスクを考え、外部との交流を一時的に中止していたが、現在音楽療法・運営推進会議を再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続、24時間の受け入れ体制もとれている。御家族様の意志を尊重し支援している。都合により困難な方はヘルパーを利用してもらっている。何かあれば連絡し、都度指示をもらっている。	かかりつけ医の継続、24時間の受け入れ態勢は取られている。かかりつけ医への受診薬取りはご家族にをお願いするが、困難な方はヘルパーを利用しておこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりから、変化の気付き、バイタル異常あれば看護師やかかりつけ医へ報告し、指示をおおぎながら、支援や看護に取り組んである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にあたり、カンファレンスの実施と医療機関との情報共有により、御本人様、御家族様が安心して治療を受けられる体制作りをしている。入院中スタッフが面会に行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	情報変化を都度、説明をしている。御本人様・御家族様の意志を尊重しながら、かかりつけ医と連携し、最大限出来る事を支援している。状況や支援方法に変化がある時は必ず連絡し、理解して頂いている。	ご本人、ご家族の意志を尊重して、かかりつけ医と連携して最大限できる事は支援されている。状況や支援方法に変化のある時は必ず連絡して理解頂きながらの支援方法を考えていっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設け、全入居者様のカルテに119シートを加え、バイタル異常値、病歴を日頃から確認している。また、救急対応の研修とAEDの使用方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消防訓練は年2回の実施。夜間想定や水害時を想定した訓練もしている。緊急連絡網には、地域の方とも連携できる体制をとっている。避難誘導アセスメントの提示、ネームプレートを用いて災害時に備えている。	年2回火災消防訓練。、昼、夜想定しての水害時を想定した訓練を行っている。避難誘導アセスメントの表示や全入居者のネームプレート。救急時には地域の方も連携できる体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの声掛けの研修を行い、日々寄り添ったケアを行っている。自尊心への配慮と心掛けており、声掛け、関わりにおいて常々確認し合っている。	スタッフの声掛け研修も行い、日々利用者に寄り添っている。スタッフ間でも関わりについて常々確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い物時、食事作り時入所者様に食べたい食材、料理名をお聞きし、希望を取り入れている。何気ない会話の中から思いや希望、要望を引き出し、支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の思いを尊重し、又その日の体調に合わせ無理強いない様に対応している。テーブルを囲んでレクを行ったり、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪、カラー、顔そり等入居者様のご希望に沿って理容の支援を行っている。朝、夜の更衣を含め、清潔に気持ちよく生活して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食材を選び、入居者様と一緒にバイキングパーティーを行っている。今年はコロナ感染防止の為、スタッフが入居者様の希望のメニューをお皿に盛って差し上げている。誕生日には希望メニューを聞いて提供している。	毎年恒例の敷地内での網焼きさんまパーティー、新米と豚汁で行う。特に現在外出ができないので食事を楽しみを感じてもらえるように力を入れている。誕生日には希望メニューを聞いて提供。又日曜日には必ずカレーにして、曜日の感覚がもてるようにと慣例化している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定も把握しながら、又おひとり、おひとりの体調を見ながら、その方に合わせた水分量、食事を摂取して頂いている。水分摂取量が少ない方には、ジュース等飲みやすい物を提供している。また、時間をすらすらしてお出しする等工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。誤嚥性肺炎の予防を含めて、臭いが生じないように、また一人で出来ずらい方は、必ず介助し、出来る方でもしっかり磨いて頂く様声掛け、見守り、確認している。夕食後は義歯を洗浄剤にて、除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛け誘導を行っている。排泄リズムの把握に努めながら、排泄が落ち付いて出来る様に、環境を整え配慮している。	排泄のタイミングがわからない方には少し早めに声をかけたり、スタッフ間でも対応に協力し合いながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動で腸のぜん動運動を活発にしている。薬に頼らず、水分摂取を多くし、体操に腹部マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々によって違うので、お湯につかる時間の長い方にタイマーを使用し、体力の消耗、負担を予防している。残存能力を活用し、出来る事は本人に行ってもらっている。洗髪前にブラッシングし、気分をやわらげて、汚れを浮かせてから、シャンプーに入っている。頭皮マッサージも喜ばれる。	入浴が楽しい事であるように入浴剤(花やモミジ、五感で感じられるもの)を使ったり、気持ちの良いシャンプーの仕方、頭皮マッサージなど色々な工夫をしている。長湯になってしまう方にタイマーなども利用して、体力の消耗や負担も予防するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で乾燥した寝具を、取り替えている。こまめに布団干し、シーツを交換を行っている。安眠できる様に、昼間の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様にも確認できるよう、御本人の前で日付、名前、服用時を声を出して確認している。慌てず、ひと呼吸を入れて行っている。飲み込まれるまで傍にいて、目を離さないでいる。薬事表の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意を把握して、おしつけ支援はさげ、日常面で、喜びがあり、生き生きとした所を見つけていくようにしている。グループ別に分かれての作業も取り入れている。①楽舎運動会 ②スポーツ大会など楽しみながら競い合うような行事も取り入れ、達成感や喜び、高揚感を感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出が難しいが、戸外の空気、景色をもっと取り入れ、花、草木又、映像など視覚での楽しみを取り入れた支援をしていきたい。今後又、十分な予防対策をしながら、取り入れていきたい。	コロナ禍で、外出は厳しいしいが、外に出ないでドライブだけしたり、敷地内周りを散歩したり、又毎日定時に廊下を3往復してもらったり、日々体力作りには努力している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が希望した物をスタッフが代わりに買いに行ったりしている。お金を持つ事の大切さを尊重し、希望のある方には確認の上所持して頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、話しが出来る様支援している。年賀状や手紙、特に今年はコロナの為面会を規制しているので、御家族様との繋がりを保つために毎月ハガキ支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かる様な作品と一緒に作って飾ったり、温度調節をして、居心地や良い空間を作っている。台所からは食事の良い匂いもしており、生活感も感じやすい空間となっている。	毎月テーマを決めた貼り絵を入居者の方と作っている。あまり参加できない方にも色を決めたりして関わりを持ってもらっている。光の入ってくる明るい部屋と、掃除や衛生が行き届いた環境の中で、台所からは調理する音や匂いがして生活感もあり居心地の良い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで休んだり、畳でテレビを見たり、洗濯物を畳んだり、一人で過ごせる時間もあり、又仲良しさんとベンチやソファでお話しながらお茶会出来る環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって愛着のある物、馴染みのある物をそのまま持って来て頂き、使用してもらっている。	馴染みのあるものや写真で、ご自分の部屋を作っている。現在転倒リスクもあり、全員ベッドにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目線の位置に分かる様に張り紙をしたり、赤テープで目印を付けて、取っ手やレバーなど分かりやすい様、工夫している。常に整理整頓し、動線に気を配り安全な環境作りをしている。		